

# 学校名：東京学芸大学附属国際中等教育学校

所在地：〒176-0063 東京都練馬区東大泉5-22-1 電話番号：03-5905-1326

記載日：2016年6月27日 記載者：赤羽 寿夫 記載者役職：副校長

## 特色

### ・「国際教養」の設定

国際バカロレア（IB）プログラムを6年一貫して実践する本校では、教科・科目授業の他に国際理解・人間理解・理数探究という3本の柱で構成される国際教養の時間がある。そしてこの時間はIB授業において重要な位置を占めている。

### ・「課題解決学習」の重視

IB教育はもとより、本校が文部科学省から認定されているSSH・SGHにおいても課題解決学習による様々なスキルの習得が必要であり、本校教育の根幹となっている。

### ・少人数 習熟度別英語教育

本校の学習環境は、国内の小学校卒業生徒と海外の小中学校卒業生徒がともに学習する環境を整えておく。従って英語の授業の充実はもとより、英語による数学や理科・社会などの授業を行う英語イマージョン授業が行われている。

### ・海外教育体験生徒へのケア

海外から帰国し、日本語の活用能力が十分でない生徒に、日本語指導を伴うJSLを実施している。

## 卒業生の活躍状況

本校は設立されてまだ10年目の学校であり、まだ1回生が今年大学を卒業する。従って、その活躍は今後に期待するところが大きい。しかし、大学進学において既に国内の国立・私立大学はもとより、海外の大学に毎年進学しており、本校が目指す「グローバル人材」の育成が着実に進んでいると思われる。

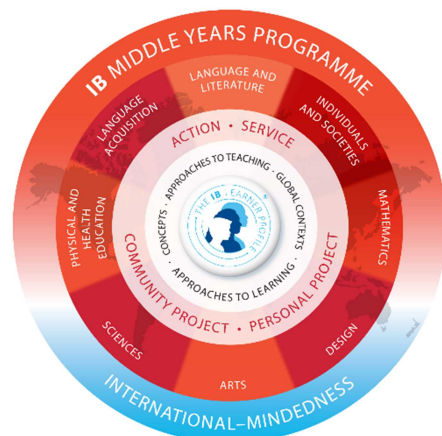
## 本校勤務経験教諭の活躍状況

本校には、基本的に公立学校からの交流人事はほとんどない。しかし、IB教育の普及のためIB校を目指す学校の教諭を長期に渡り研修教諭として受け入れている。これらの教諭は、研修終了後地元に戻り、それぞれの教育委員会を中心にIB教育の普及に尽力している。

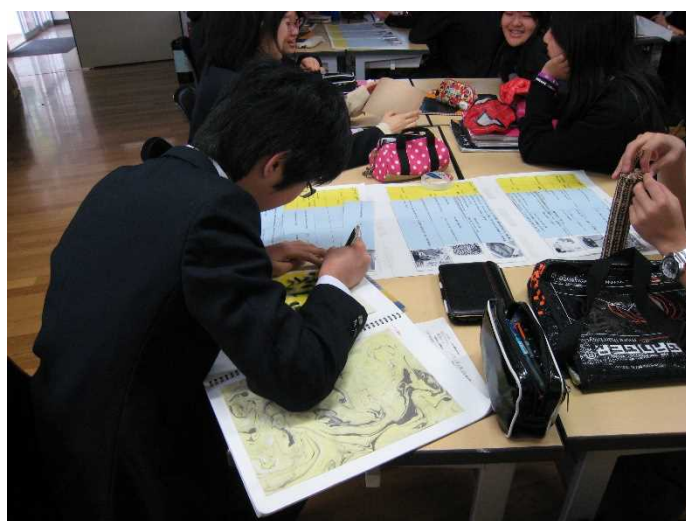
## 先導的な取り組み

## 6年一貫したIB教育（MYPとDP）

本校では2010年2月にIBOよりMYP校として認定を受け、以来9年間IB校としてMYP（中学1年生から高校1年生までのプログラム）の実践を蓄積してきた。その実践事例は、IB校または候補校のみならず、グローバル人材育成を目指す各学校において、参考事例の一つとなっている。また、2015年3月にはDP校（高校2・3年生のプログラム）として認定を受け、2016年4月より授業を開始している。



本校のDPは、ある授業は日本語で実施、ある授業は英語で実施するDLDPとしており、このような実践は国内でまだ例がなく、本校が先駆けとなっている。今後、DPを導入する学校において、先駆的实践事例が蓄積されていくこと、またそれが公開されていくことに期待されている。



(英語による美術の授業実践)

## 中学1年生から高校3年生までを対象としたSSH・SGH事業

本校は、2014年3月にSSH指定校となり、2015年3月にはSGH指定校となった。現在生徒の課題研究を中心に、それぞれの事業が独立して実施されている。ただそこに共通することとして6年一貫事業として位置付けていることである。これは、本校が6年一貫校である特色を十分に生かす目的と共に、ともすると4月に始まり3月に終わるといった、1年単位の研究活動に陥りやすい課題研究を、数年単位で継続的に研究し、より深い研究となるよう支援していくことが目的である。現在両事業とも生徒の成果物を広く発表する場を設置し、外部の方々から評価を受けるとともに支援のあり方等発信している。

### 地域における存在

現在地域の防災訓練活動に強くかかわっている。具体的には本校敷地内が一時避難所として協定を結んでおり、地域の避難訓練の際には、本校生徒が積極的に参加している。また、近くのデイケアサービスセンターとも非常時の介護支援として協定を結んでおり、有事の場合には本校生徒が避難の支援にあたることになっている。また今年度からその訓練実施の計画を立てることが検討されている。

### 本校の存在意義

一番重要な存在意義は、附属として教員養成にしっかりと携わることである。年間を通した教育実習の受け入れはもとより、常に外部からの見学・研修希望に応じることが必要である。そのような中で、本校はIB教育実践やSSH・SGH事業といった実践の蓄積からくる情報・支援のノウハウを、今後も提供し続けるつもりである。